

愛・勇気・賢治は今・とても新しい

ひゆう、ひゆう、
ひゆうひゆう、
さあ降らすんだよ。
降らすんだよ。

The Fourth of the Narcissus Month | すいせんづきのよっか

水仙月の四日

原作——宮沢賢治 パベット・アニメーション

●16mm●カラー●12分 [販売価格]160,000円

[対象] 小学・中学・一般/特別活動・映画会

文部省選定/日本映画ペンクラブ推薦
国際アニメ映画祭広島大会入選
アムシー国際アニメ映画祭(フランス)入選
オタワ国際アニメ映画祭(カナダ)入選
アンデルセン国際映画祭(デンマーク)入選
上海国際アニメーション映画祭子ども部門第1位



希代の作として 必見を薦む

関口 勇 全国視聴覚教育連盟事務局長

日本のアニメ映画界に独特の地歩を築いた故・岡本忠成氏。その直弟子・長崎希さんらによって製作された野心作。

字幕が四回出るだけでナレーションなしの12分。正に映像が語る素敵な作。音楽が絵柄と一体で素晴らしいナレーションとなっている。宮沢賢治の幻想性を感性巧みに表現し得たものといえよう。

水仙月の四日…冬が最後のひとあばれをするという日、西の山から雪簀ごがやってきて、早春の雪野原に新たな吹雪を巻き起こす。

雪簀ごは「水仙月の四日、子どもの一人や二人こっちへ取ってしまえ」と叫ぶ。だが悪気のなきような雪童子が「うつ伏せに倒れているんだよ、動いちゃいけない」と子どもを雪に埋め込み、目印の小枝を立てて去る。大あばれをした雪童子、そっと子どもの雪を払除けてニコッと笑う。そして家人に背負われて行く子どもの後姿に再び微笑みをおくる。その顔に、雪童子のやさしさが浮かんで見える。…見る人の心もほっとする。

「やさしさ」「思いやり」の心、「命の大切さ」、共に深いかわりのもとで、私たちの生活は温かく和やかになることを、雪童子は語りかけている。子どもも若者も大人も、心にジーンとくるものを感じ、思いの残るすばらしい作。ひとりでも多くの人々に、ぜひ見ていただきたいと心から願ってやまない。

●スタッフ

原作	宮沢賢治
演出	長崎希
人形	保坂純子
美術	川下倫子
撮影・照明	田村実
アニメーション	長崎希 吉田悟
音楽	杉浦正嘉 「ゆたよりのドクターレコード」0303-20
効果	石塚哲
録音	甲藤勇
編集	相沢尚子
製作	保坂純子 N&Gプロダクション



子供が主人公のアニメ映画は、たいてい子供向けの話で、大人には面白くない。

子供が主人公のアニメ映画は、たいてい子供向けの話で、大人には面白くない。

子供が主人公のアニメ映画は、たいてい子供向けの話で、大人には面白くない。

子供が主人公のアニメ映画は、たいてい子供向けの話で、大人には面白くない。

子供が主人公のアニメ映画は、たいてい子供向けの話で、大人には面白くない。

配給元

株式会社 **桜映画社**

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1
☎03-3320-6311 FAX3320-7666

配給